

# 保護者が経験した乳幼児の服薬困難の事例とその対処方法に関する実態調査

P-091

○石橋 耕太郎<sup>1</sup>, 嶋田 光希<sup>1</sup>, 常山 俊和<sup>1</sup>, 沼田 聡美<sup>1</sup>, 数森 美佳<sup>1</sup>, 板谷 美裕<sup>1</sup>  
上田 正人<sup>1</sup>, 木村 真弓<sup>1</sup>, 寺門 千佳子<sup>1</sup>, 難波 美穂<sup>1</sup>, 石川 洋一<sup>2</sup>



(1)一般社団法人くすりの適正使用協議会 (2)明治薬科大学 臨床薬学部門/小児医薬品評価学

## 背景

### 保護者が経験した乳幼児の服薬困難の事例とその対処方法に関して、実態把握が不十分

乳幼児の薬物療法の効果を得るには、医療従事者が保護者に内服援助を行い、乳幼児が服用できる薬剤を選択することが重要である。しかし、保護者が乳幼児の服薬困難に陥った際、どのようなことに苦ashi、嫌がった場合にどう対処しているかの実態調査は多くない。

## 目的

### 保護者が経験した乳幼児の服薬困難の事例と、その対処方法の実態を把握すること

## 結論・考察

### 薬剤師が服薬指導の際に、保護者の悩みを積極的に聞き取り、剤型変更等の提案を行う事が、乳幼児の服薬で悩む保護者の負担軽減につながる可能性

本調査により、乳幼児の服薬困難な経験をもつ保護者は、解決策の1つである剤型変更を選択していない現状が明らかとなった。一方で、「他の飲食物と混ぜて服薬させる」という工夫については、服薬指導時に情報提供され、保護者へ周知されている可能性が示唆された。

したがって、小児適応がある薬剤のすべてに剤型の選択肢があるとは限らないが、薬剤師が服薬指導の際に、保護者の悩みを積極的に聞き取り、剤型変更等の提案を行うことも、保護者の負担を軽減する有用な一法となる可能性が示唆された。

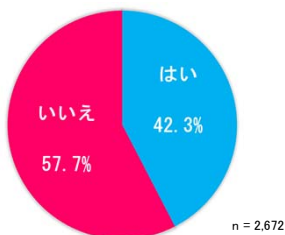
## 方法

本調査は、2018年2月26日(月)~2018年3月12日(月)の2週間にわたって、乳幼児をもつ保護者(子育てマガジンを運営する「Cozre」ユーザー)3,943名に対し、インターネットによる無記名のアンケート調査を実施した。そのうち「乳幼児の服薬困難の事例とその対処方法」に関するアンケート内容に、2,672名が回答した。データに関しては、統計ソフトであるStata15(version15.1)を用いて集計を行った。本調査は、(一社)くすりの適正使用協議会倫理委員会の承認(承認番号:20180215-3)を得て実施した。

## 結果

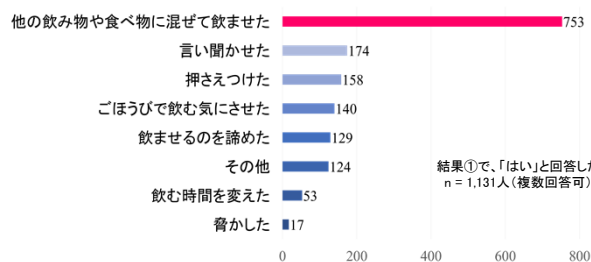
### 結果①

Q. 子どもが薬を飲むのを嫌がったことはありますか



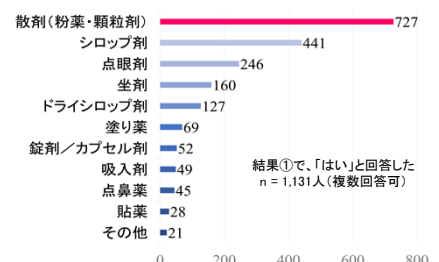
### 結果②

Q. その時の対応に当てはまるものは



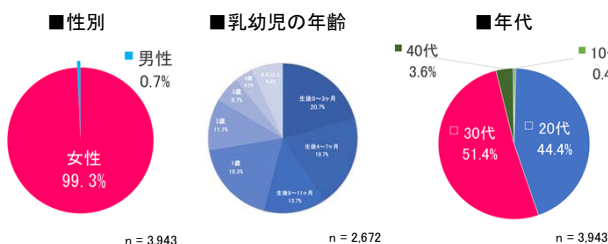
### 結果③

Q. 子どもが嫌がって困ったことのある薬の剤形はありますか



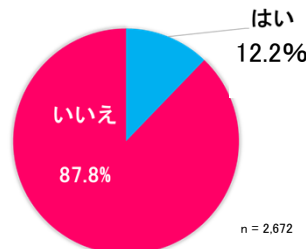
## 回答者の属性

注意: 回答者の個別属性は入手できなかったため、すべてのアンケート回答者の結果である。



## 結果④

Q. 子どもが薬を飲んでくれないときに薬局で、他の薬や剤形に変更してもらった経験は



## 結果⑤

Q. 剤形は、どのような変更をしてもらいましたか (変更前と、変更後の剤形を選択)

上位3位のみ抽出:

変更前	変更後	人数
散剤	シロップ剤	129
シロップ剤	散剤	58
散剤	錠剤	26

結果③で、「はい」と回答した: n = 326人

## 参考:信頼性のある情報サイトを作成し、啓発活動を実施



保護者向けサイト「子どもにくすりをのませるコツ」  
2019年2月20日にWEB公開  
<http://www.rad-ar.or.jp/use/child>

### ポイント

1. 育児中の約2,700名の保護者から寄せられた、悩みや困った経験をもとに作成
2. わかりやすい言葉や、ひと目で分かるイラスト、図表
3. 薬の形状ごとの飲ませ方、薬を飲む時の環境づくり、困った時に誰に何をどう聞くかの細かいアドバイスも



配布用カード型資料を作成



←こちらより直接HPにアクセスできます